

令和4年度(2022年度)第2回 豊中市保健医療審議会 議事録

1. 日 時 令和5年2月2日(木)10時00分～11時30分

2. 場 所 ZOOMによるオンライン会議

3. 案 件

- (1) 会長、副会長、部会長（食育推進部会）の選出
- (2) 保健所各課 令和5年度事業実施予定 報告
- (3) 健康づくり・食育計画に関するアンケート 報告

4. 出席者（敬称略）

(1) 委員（名簿順）：10名

委 員	横山 美江	（大阪公立大学）
	内藤 義彦	（武庫川女子大学）
	林 宏一	（武庫川女子大学）
	岡本 千加	（（一社）大阪府助産師会）
	飯尾 雅彦	（（一社）豊中市医師会）
	今井 誠	（（社福）豊中市社会福祉協議会）
	坂本 勇二郎	（豊中市病院連絡協議会）
	小池 由久	（豊中商工会議所）
	古川 悦子	（豊中市健康づくり推進員会）
	松本 麻梨恵	（市民委員）

(2) 傍聴者：0名

議事概要

○開会 10時00分

■審議会の成立要件の確認

委員数12名のうち、10名出席により成立。

■案件（1） 会長・副会長・部会長 選出

委員による互選により、会長は内藤委員、副会長は飯尾委員に決定。

会長指名により、食育推進部会の部会長は林委員に決定。

■案件（2） 保健所各課 令和5年度 事業実施予定について

【事務局から説明】

【質疑応答】

委員	<p>豊中市は空港対策の一環として健診事業を行っており、多数の方が受診されている。そういった要因もあり、市民健診の受診率が低くなっているのではないかと。</p> <p>健康有事医療スタッフ登録制度について、有事に備えて事前登録することは非常に重要である。しかし、登録者の活動にはリスクが伴うが、どのような対応を考えているのか。</p>
事務局	<p>健診受診者が低くなっている要因については、アンケートで分析等を行うことも考えている。</p> <p>スタッフ登録制度については、ボランティア保険などをかけることや、一定の謝礼金などの支給を検討している。</p>
委員	<p>二の切公園で朝、地域の方が集まられて体操をしているが、その方たちに誘われ、体操の仲間に入れていただき7年ほどになる。仲間の中には20年以上、ほぼ毎日参加されている方もおられる。</p> <p>このように、市民が運動習慣をつける事業が広がっていくことを願いつつ、体操に参加している。</p>

事務局	<p>市民の皆さまの健康づくり・介護予防の観点からも、地域でそのような活動をしているということは非常に心強い。このような活動が市内全域に広がっていけばいいと思う。</p> <p>コロナ健康支援事業補助金事業については、民間事業者等に補助を行うものでボランティアの方は対象外になるが、何か他に応援する仕組みを考えていきたい。</p>
会長	<p>コロナ禍による身体活動の不足は深刻である。色々アイデアを出してもらいたい。</p>
委員	<p>行政の最も大切なミッションは、地域住民の命と財産を守ることであり、中でも命を守るということは保健医療の役割である。有事医療スタッフ登録も大事であるが、病院・開業医・在宅医師はそれぞれどのようなことを担うのか、それぞれの役割を明確化し、システム構築を行うことが、より必要なことである。</p> <p>今回、新型コロナの総括も含めて、それぞれの役割をどのように明確にし、災害医療に対してどのように取り組んでいくのかが、優先される課題と考えるが、市ではシステム構築について、どこまで進んでいるのか。</p>
事務局	<p>豊中市保健所では地域医療推進会議を所管しており、今年度、災害対応を議題として会議を開催している。会議では医師会・病院連絡協議会・看護ステーションなどの参加もいただきながら、災害マニュアルの策定に取り組んでいるところである。</p> <p>来年度の秋頃には、策定した災害マニュアルに従い、実施訓練も行う予定であるが、今回の有事医療スタッフ登録制度についても取り入れながら、市民の命を守ることに繋がっていけば、と考えている。</p>
委員	<p>平時と有事の2本立てで政策を考えていく必要がある。有事対応については、訓練もしっかりとやっていただくようお願いします。</p>
会長	<p>有事の期間が長すぎると、メンタルへの悪影響がみられる。バックアップの支援など、今後考えていくことが必要である。</p>
委員	<p>出産子育て応援金・伴走型相談支援について、妊娠届出時の医療職による全数面接及び新生児訪問・乳児家庭全戸訪問での面接は、具体的にはどのような職種を想定しているのか。</p>

事務局	<p>妊娠届出時には、保健師・助産師・看護師が窓口で面接を行っている。市内 3 か所の保健センターで妊娠届を受理しており、体調等のため来所できない場合でも後日に改めて訪問面接を行うなど、全ての妊婦の方に対面での面談を実施するよう心掛けている。各保健センターには社会福祉職も配置されているので、経済的支援などの相談や他の困りごとにも対応できるようにしている。</p> <p>新生児訪問は保健師・助産師が行い、乳児家庭全戸訪問はこども相談課が委託した訪問員が行っている。面談の際には子育て情報をお渡ししており、併せて出産子育て応援金の情報提供も行っている。</p>
委員	<p>出産子育て応援金・伴走型相談支援は、もともと内閣官房における孤独孤立対策の重点計画の中で話があがってきた。有識者会議に参加していたが、当初は保健師による継続支援ということで考えられていたところ、実際にはその形態での実施は困難な自治体が多く、伴走型支援という形で実施することとなった。</p> <p>妊娠届出時の全数面接の際に、特にハイリスクの方に関しては地区担当保健師が面接や家庭訪問を行うなど、市で実施することはできるのか。</p>
事務局	<p>窓口では年間 3,000 件を超える妊娠届出があり、地区担当保健師が必ず初回面接を行うことは困難であるため、母子健康手帳に担当保健師名を記載している旨をお伝えしている。また、面接の際に共通のリスクアセスメント項目に従って、支援が必要な方であるかどうかを判断している。</p> <p>支援が必要な方であれば地区担当保健師に引継ぎを行い、産前に電話や訪問などを行っており、妊娠期の訪問件数も増えている。例えば精神疾患をお持ちの妊婦であれば、出産前から病院と連携し、複数回の会議を行い支援を行う、産後ケア事業も産前に申し込んでいただくなど力を入れて行っている。</p> <p>保健師による継続的な支援は従来から取り組んでおり、今回の出産子育て応援金の情報提供により、支援を受け入れていただくきっかけとなればと考えている。</p>
委員	<p>継続支援には色々な効果があるので、ぜひ今の取り組みを進めていっていただきたい。</p>
委員	<p>新型コロナの感染症法上の位置づけが「2 類相当」から「5 類」の扱いとなる見通しであるが、市としてはどのように対応していくのか。</p>
事務局	<p>5 月 8 日から 5 類ということで、個人的に危惧していることは、切り替えがうまくいくのか。5 月 7 日と 8 日の陽性者への支援が、一日で変われ</p>

	<p>るのか、というところを懸念している。</p> <p>また日本人の特性かもしれないが、現在でも屋外ではマスク着用は必要ない、とされているにもかかわらず、多くの方が屋外でもマスクを着用している。このあたりの切り替えが難しいのではと思っている。国・府などには広く周知啓発していただきたいが、市としても地道な地域活動として何かできることがあれば、行っていきたい。</p>
委員	<p>小さな子どものマスク着用は、成長に影響があるということも報道されているので、そういった情報も分かり次第市民にフィードバックしていただければありがたい。</p>

■案件（3） 健康づくり・食育計画に関するアンケート報告について

【事務局から、資料3を用いて説明。】

【質疑応答】

委員	<p>生活習慣病の予防啓発、例えば骨粗しょう症や肥満予防のために、どれほど市として介入し、啓発を行っているのか。</p> <p>自身でも食事指導を行っているが、「予防」ということで行動に移される方が少ない。健康のために何をすればいいのか、という知識はお持ちであるが具体的な行動に移さない、ということが一番の課題であるが、どのような対策を考えられているのか。</p>
事務局	<p>骨粗しょう症であれば、市民健診などで検査を行い、啓発を行っている。学校に通われておられるような方であれば、肥満予防について学校教育の中で啓発を行っている。また、市民健診などで何らかの異常があった方には、健康相談などで個別に介入していくケースもあり、広く周知する部分と個別に係っていく部分があると考えている。</p>
委員	<p>より一歩踏み込んだ対策として未病の方にも介入するなど、介入の度合いを増やすと、改善する方も増えると思われる。</p>
会長	<p>アンケート回収率が約3～4割であるが、アンケート以外のデータ（他のけんしんの結果や医療費や死亡のデータなど）も次期の健康づくり計画には反映されるのか。</p>
事務局	<p>アンケート以外の数値も反映させる予定です。</p>

委員	がん検診の受診率が下がっていることは、がんの早期発見に繋がらないということになるため、大変な課題である。
委員	アンケート項目における栄養と活動の指標について、それぞれ適正な範囲内にもってこることが一番の目的と思うが、お互い関連しあっており、片方の数値だけでは判断できないのでは。
事務局	今後、クロス集計なども行い、併せて分析していきたい。
会長	今回は各基本的なデータをご提示いただいたが、全体の関係性も踏まえた内容もまたご紹介いただきたい。
委員	アンケートでの子育て関連の項目に関して、コロナ禍の影響もあり子育てに自信がない、楽しいと思えない、などの回答が目立っている。子育て教室などは対面で実施できなかったことも大きいですが、対面型両親教室も再開しつつあるので、子育てに対するデータが今後は改善するのではないかと感じました。コロナ禍が落ちつき、いい方向に向かうことを期待する。
事務局	若い世代では、対面での関わりを敬遠する方がおられる一方、対面での相談や教室を希望される方も非常に多い。コロナ禍で集団や外遊びの経験が少なく、子どもの発達の個別相談が増えている。 対面型両親教室のニーズも高く、助産師会のお力も借りながら、また子育て支援の部門とも協力しながら、子育ての環境を整えていきたい。

■その他

事務局	<p>次回の審議会は8月頃の開催を予定している。来年度は新たな健康づくり・食育推進計画にかかる諮問を予定している。</p> <p>来年度の審議会開催予定については、資料4をご確認ください。</p>
-----	--

○閉会 午前 11時30分